

梅宮うめのみやは四条の西梅津里うめづのさとにあり。祭る所四座にして、酒解神さかとけの、大若子おほわかこ、小若子こわかこ、酒解子神さかとけのこなり。相殿には橘贈たちばなのそうだいじやうだい太政大
臣清友じんきよとも〔諸兄公孫奈良麿子もろへ こうのまごなら まろのこ〕檀林皇后嘉智子だんりんくわうぐうかちしを祭る。〔此皇后は嵯峨さが天皇てんわうの愛妃なりしかども、太子なき事を常に愁て
酒解神さかとけのを祈り給へり、既に感応ありて姪身となりまし、則当社すなはちの清砂を御坐の下に敷、太子を降誕し給ふ、仁明天
皇是なり。故に世人産月に臨ば、当社の砂を取て帶襟に佩は、此遺風なりとぞ〕熊野三所影向石くまのさんしよえいがうせき〔紀州三熊野くまのより三ツ
の鳥来つて化するなり。当社の例祭は四月上の申日、神輿二基〕